

賛否など態度決定に至った理由・討論

令和 6 年 9 月定例会	
議案番号 議案名	認定第1号 令和5年度松戸市一般会計歳入歳出決算の認定について
議員名・会派名等	市民クラブ
賛否態度	賛成
賛否など態度決定 に至った理由や 討論	<p>総務費 であります。</p> <p>まず「全庁業務量調査」についてですが、大変有意義であったと評価致します。職員でしか出来ない業務、いわゆるコア業務と、逆に職員でなくても出来るノンコア業務の現状把握が出来たとのこと、大いに評価します。この調査結果を活用し、さらなる DX を推し進め、市民の利便性の向上も含め、新しい市役所業務のあり方を総合的に判断し、新庁舎建設に向けて着実に進んでいただきたいと思います。</p> <p>次に「公共施設再編整備推進業務」についてです。 今回の決算でも度々出てきました、公共施設の長寿命化計画(個別施設計画)の策定を踏まえ、今年 3 月に「公共施設等総合管理計画」の改訂をしたとこのことであります。</p> <p>公共施設の再編整備の考え方では、本定例会で会派の市川議員、末松議員も言及しました、『量の最適化』、さらには『責任の所在を明確にして取り組むこと』が重要だと会派としては考えております。非常に難しい課題ではありますが、是非このことを心に留め置いていただき、公共施設の再整備を進めていただきたいと思います。と要望致します。</p> <p>地方創生 SDGs 推進事業については、  <ul style="list-style-type: none"> <li>・本市も全庁的に推し進めている SDGs を推し進めている点</li> <li>・街づくりに若者を参加させている点</li> <li>・そしてこの事業が「常盤平団地の課題解決」に資する取り組みである点</li> </ul>           を評価しつつも、費用対効果やより効果的な事業の実現を目指して努力して頂きたい。また、このソフト事業が常盤平団地再生のハード面の事業の足を引っ張ることなく、ともに協議し、最善の選択をしていただくよう要望致します。</p> <p>松戸駅周辺の客引き行為に対するパトロールを強化した点や市設置型防犯カメラの設置台数を増やしたとのこと、大いに評価します。松</p>

戸市の顔である松戸駅前の安全、安心を確保することは松戸市全体の評価を上げることとなります。また防犯カメラはその成果を一義的に推し量ることは難しいですが、「防犯」という観点から市民の安心・安全が確保されていると評価します。

行政サービスセンター移転関係経費についても評価致します。移転後はセンター内で座って待てるようになり、「印鑑登録業務」の一部手続きも加わったことにより、市民サービスの向上になっていると評価します。

さらに行政サービスセンターでの取り組みとDXのさらなる進化を考慮し、支所機能の再考もしていただきたい。多くの市民にとって市役所に来るよりも身近な支所で用が済めば、それこそが一番の利便性向上だと考えており、市役所建て替えにあわせて、是非とも支所機能向上も視野に取り組んでいただくことを要望致します。

続いて民生費であります。

民生費においては予算規模が毎年増加する状況化、子育て施策、高齢者施策・障害者施策等、引き続き、それぞれの分野において、その業務に誇りを持ちつつも、財政面も留意しつつ丁寧な施策の推進をお願いいたします。

国の政策や市民から寄せられる様々な要望、新たなニーズへの対応を考えますと、改めて、みなさまのご努力に感謝いたすものですが、その中で、障害、介護、保育それぞれの施設で働く方、加えて、地域の居場所やグリーンスローモビリティなど地域での活動においても担い手の不足は継続した課題でありますので、人材の確保にご努力いただきますようお願いいたします。

ひとり親家庭へは、母子・父子自立支援プログラムの策定や離婚前後の親支援講座等、きめ細かな支援を実施して頂き、「満足だった」等のお声を頂いていること、評価いたします。

しかし、ひとり親家庭、特にシングルマザーの貧困問題は切実な状況です。今後は個々のニーズ・状況に応じてひとり親家庭へも更なる充実した支援業務の拡充をして頂きたく要望致します。

またいじめの窓口を市長部局にも設置して頂いたこと大変評価します。利用実績は少ないですが、多ければよいという事業ではありません。また教育委員会や各学校でのいじめ対策がしっかりと機能しており、重大事態になる前に対処いただいているお陰だと評価致します。

その他、医療的ケア児、児童虐待、ヤングケアラー、子ども食堂、ひ

とり親家庭などの問題にもきめ細かく対応下さり、高く評価致します。しかし、これらの充実したサービスが提供されているにも関わらず、少子化傾向が改善されないのはなぜなのか？他に重要なサービスが必要なのか？それとも根本的に私たちの価値観や目指している方向性が違っているのかなど、今一度原点に戻って考える必要があるのかもしれないと言及しておきます。

次に衛生費であります。

令和5年度は新型コロナウイルス感染症も季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げられ、市民の日常活動が正常化しつつ、市民の皆様健康を守るため、新型コロナウイルスワクチン接種業務を始め、さまざまな事業が実施されてまいりました。

二度と起きてほしくはありませんが、グローバル社会の中、今後いつこのようなパンデミックが起きるともわかりませので、今回の経験を活かし、感染症対策のみならず、様々な緊急事態への対策を引き続きお願いするとともに、市民の健康と安心を守るため、創意工夫の上で様々な事業を引き続き展開いただきますようお願いいたします。次に労働費・商工費ならびに農林水産業費であります。

ビジネスサポートセンター業務、事業者緊急支援対策運営業務、電気ガス補助金など経営支援事業について、評価致します。物価高騰やエネルギー価格の高騰、人手不足による人件費高騰など、事業者を取り巻く環境は厳しく複雑化している中、事業者が抱える目前の課題解決のみならず、潜在的な課題も掘り起こし、対応していただけているとのこと、大いに評価します。

しかし、松戸市は東京に隣接しているメリットを生かし切れていないと思われま。外環道、北千葉道路、都市計画道路3・3・7号と結節する高塚新田地区をはじめ、矢切地区、常磐線沿線、武蔵野線沿線、北総線沿線など、松戸市には商業、工業地帯としての大きな潜在能力を秘めていると思えます。全庁上げてさらなる松戸市の発展を模索していただくよう要望致します。

農林水産費ですが、市内の農業従事者の高齢化、人手不足の問題がかなり深刻になっているようです。市内農業従事者が本当に今後も農業を続けたいのか、続けたいのであれば市として現在の事業でよいのか？辞めたい農家が多いのであれば、市として今後どのような手立てをするべきなのかなど、都市農業のあり方を今一度大きな視点で見直して頂きたいと要望致します。

さて、労働費・商工費ならびに農林水産業費は総務費、民生費に比べると予算規模的には見劣りがするかもしれませんが、総務費も民生費もその原資は市民の経済活動による税金によって成り立ってお

ります。より充実した福祉を市民に提供していくためにも、その財源確保が何よりも大事です。どうぞ市長をはじめ全職員がその視点を忘れずに全ての事業にあって頂くことを期待しております。

次に土木費であります。

道路整備では、市内一円、道路補修工事を始め、道路網の骨格を形成する都市計画道路3・3・7号など整備が進められており、引き続き計画的な道路整備をお願いいたします。

我が会派では社会インフラの整備が非常に重要であると考えます。もちろん民間活力にも大いに期待するものではありませんが、やはり松戸市全体の都市計画、再整備、再開発は、いずれも行政側がその先陣を切る必要があると考えます。

新拠点整備を中心とした松戸駅周辺地域活性化事業、常盤平団地の再開発、矢切地区の開発、新松戸駅東側地区土地区画整理事業や北小金駅南口東地区市街地再開発事業の推進は、本市の将来に資する重要な事業だと認識しています。

その事業規模も大きいことから、民間活力の活用など、財源の捻出に工夫を重ね、健全な財政運営に十分配慮していただくことを要望とさせていただきます。

次に、消防費であります。

まずはいろいろなリスクを負いながら救急搬送業務に従事されていた消防職員の皆様の御尽力に対して、心からの敬意と感謝を申し上げます。

防災拠点整備業務や通信体制整備業務等、着々と大規模災害に備えて頂いている点は、大いに評価致します。しかし、市内でも地域間で災害に対する意識や備えに大きな開きがあるようです。いざという時に被害が最小限に抑えられるよう、さらなる備えをしていただくことを要望致します。

また消防団員の減少は大きな問題だと感じております。これは消防に限らず、自治活動を担う人材、特に若い人材の不足の問題なのだろうと思います。子どもの頃からもっと地元の活動に参加し、自分たちの地域は自分たちで守り、作り上げていくものなのだという意識を育んでもらえたらと思います。

次に教育費であります。

次世代を担う子どもたちの教育の重要性につきましては、言うに及

びません。また、教育委員会の皆さんや学校現場で日々ご尽力頂いている先生方にも感謝しております。

教育委員会独自の広報誌の発行は高く評価致します。独立した機関としての教育委員会の目指すものや今後の取り組みなど、どんどん発信して頂きたい。また医療的ケア児への対応、外国人への日本語教育など困っている児童、ご家庭への支援も高く評価します。さらに教員の働き方改革もいろいろと取り組んで頂きました。特に令和5年度では、デジタル採点システムを採用したお陰で、どれだけ多くの教員が救われたか知れません。ありがとうございました。

しかし、課題も見えてきました。部活動地域連携事業の成果と課題を聞きましたが、これを実現するためには、多くのそして大きな課題があること、共有しました。この問題は単に部活動の地域移行と言うことではなく、教師の働き方改革と教師のやりがいについて、また「地域で子どもたちを共に育てていく」という大きな問題です。大変なご苦労をおかけしますが、部活動から学ぶことは非常に大きい故、どうかうまく実現して頂きたいと思います。

次にこれらの事業を実施するための財源となる歳入についてであります。

市税収入は前年度比およそ10億円増の約728億円となり、過去最大となりました。こういった税収増をどのように市民に還元し、本市の活力を生み出していくのか。インフレ下における行財政運営の視点を持ちつつも、引き続き市税収入等の確保に努めていただくようお願いを申し上げます。

また、令和5年度決算を鑑み、財政調整基金の取り崩しについてですが、令和4年度よりおよそ22億6,000万円の減となっておりますが、その理由が国保への繰出しとの答弁でした。

国民健康保険は原則として加入者の「互助」によって成り立っており、受益者負担が基本だと理解しております。健全財政の実現のためにもどうか国保保険料の適正化に踏み切って頂きたいと思います。

また市債の発行につきましても、今後の推移を的確に把握し、慎重に行っていただきたいと思います。

以上一般会計につきまして、指摘等含め賛同する趣旨を述べてまいりました。